

11月29日からの1泊2日、庶路学園の防災宿泊研修が同校体育館で行われました。

同校は町の指定避難所となっていることから、生徒たちが災害時に積極的に行動できるよう防災研修を行っています。

1日目は防災士の村山隆一さんを講師に、避難所の運営を模擬体験する「北海道版避難所運営ゲーム（DOはぐ）」を行いました。

北海道版の「DOはぐ」は、真冬に直下型地震が発生し、電気等が使えないという想定。生徒たちは「ごみはどこに出すのか」「ストーブはどこに置くのか」といった数分ごとに訪れる課題に対応しながら、避難者カードに書かれた「家族構成」や「障がいの有無」「ペット同伴」など事情を考慮し、避難所のどこで過ごしてもらうのが適切かを話し合い、体育館の平面図に避難者カードを並べました。

その後は、同校に備蓄されている段ボールベットや毛布などを生徒自ら運搬し、教職員や保護者、地域の方と協力して体育館へ設置しました。夕食では防災食「アルファ米」100人分の炊き出しを行い、レトルトカレーをかけて試食しました。

2日目は、釧路西消防署白糠支署の職員による救命救急講座が行われ、生徒がAEDの使

用方法などを学びました。

生徒は本研修を通じて、災害時のしかるべき行動を学び、実際に災害が起きた時の心構えを新たにしていました。



①北海道版避難所運営ゲーム(DOはぐ)の様子。②段ボールベットを組み立てる生徒と地域の方。③防災食のアルファ米を炊いて試食。④心臓に電気ショックを与えるAEDを使用する生徒。

地域貢献ありがとうございます

大成ロテック株式会社（本社：東京都）は、地域貢献の一環として庶路支所前の身体障害者用駐車場と集会所の区画線整備を実施しました。同社は国道38号白糠恋間交差点舗装工事を行っており、現場近くで何かできることはないかと地域貢献を申し出ました。

12月10日、庶路支所と乳呑集会所の作業が行われ、作業員3人がラインマーカーで丁寧に区画線を引きました。また、13日には晩集会所の駐車場区画線整備が行われました。現場代理人の小笠原智輝さんは「地域の方が多く利用する場所なので、気持ちよく使っていただければ」と話していました。



①庶路支所前の身体障害者用駐車場が入り口から近くなったことで、出入りがしやすくなりました。②乳呑集会所の駐車場に、新たに区画線がつけました。ありがとうございます。